

令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡南部特別支援学校 P T A	
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	11人

1. 使用状況

寄贈物品名	バイブレーション・ビーンズ・クッション
使用学年及び人数	通学生(小学生4人 中学生1人)、 訪問生4人
使用頻度	体育(週2回)及び訪問生スクーリング実施時(不定期)
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業で、サーキットトレーニングを行う際、種目の一つとして使用した。児童生徒の好きな音楽を流し、身体の動きや笑顔を引き出したり、オルゴール等の落ち着いた曲を流して身体の力を抜くように促したりすることができた。 ・訪問教育生のスクーリングで全身を使った感覚遊びのコーナーの一つとして使用した。音楽をかけてバイブレーションを楽しむ方法と、音楽はかけずに弾みや包み込まれるような感覚を楽しむ方法、の二つで用いた。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業で、好きな音楽がクッションから流れるとうれしくて笑顔になったり、身体(両手両足)を動かしたりする様子が見られた。 ・音楽によって振動が始まると驚いたような表情を見せ、止まると不思議そうな表情に変わるなど、楽しむ姿が見られた。 ・低音による振動を気に入り、何度もやりたがる児童生徒もいた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚的な運動(揺れ)と好きな音楽が流れることを、同時に行うことができるので、今後も使用していきたい。 ・余暇活動の中ですべての児童生徒が使えるようにしていきたい。 ・高さがあるため、上に乗っている児童生徒がバイブレーション等によって姿勢が崩れ、下に落ちてしまうことがないように安全に配慮して使用したい。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく重量もあるものなので持ち運びには適していない。もう少し小さいものがあると訪問教育で家庭においても使用できると思われる。

2. 活用の様子



- 体育の授業「サーキット」の中の一科目として使用した。クッションに寝る(児童生徒の実態に合わせてタオル等を挟んで隙間をなくす)ようにして使用した。
- 低音の響きが苦手な児童もいたが、スピーカーで調整して使用することで振動を楽しむことができた。



- 全身が包み込まれるような感覚を楽しみ、無理なく姿勢保持することができた。



- 低音による振動に笑顔を見せ、リラックスしながら楽しむことができた。



- 振動の心地良さで全身の力を抜いてゆったりと身を委ねていた。